



青森県高等学校PTA連合会事務局
〒030-0113 青森市第二間屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内
TEL 017-757-8586 FAX 017-757-8587
E-mail: akp017si@galaxy.ocn.ne.jp

102号

2025.7.10



青森県高P連調査広報委員会
題字：八戸東高等学校 諏訪内博彦



←「高P連公式HP」二次元コードからアクセス!!
<https://www.aomori-koupren.com/>

令和
7年度

青森県高等学校PTA連合会

下北むつ
大会



6月14日、下北文化会館大ホールを会場に青森県高等学校PTA連合会下北むつ大会が開催されました。大会は下北むつ地区協議会副会長の山川隼氏の開会のことばで開会式・表彰式が始まりました。

始めに大会長の高橋尚裕青森県高等学校PTA連合会会長から、改めて感じたこととして以下の3点を挙げられました。一つ目は「子供たちの声に耳を傾けることの大切さ」で、子ども

大会テーマ

「新しい時代のPTA」

～ともに育む、ともに進む～

たちの想いやニーズにしっかりと耳を傾け、その声に基づいた活動を展開することで、子どもたちの学校生活がより充実したものになる。二つ目は「教職員の働き方改革の必要性」で、教職を志す人が減ることにより、影響を受けるのは他ならぬ子どもたちであり、PTAとして学校運営に関わることが求められている。三つ目は「PTA活動に関わる皆様の意識」で、「子どもたちのために何かしたい」という熱意のある皆様が、PTAは今なお必要な存在であると確信しているということでした。また、本大会のテーマについて触れ、今大会が、これからのPTAはどうあるべきか、どのように進んでいくべきかをともに考える貴重な機会となることを心より願いますと結び、挨拶されました。

続いて、下北むつ地区協議会会長の辻雅也大会実行委員長が、地域社会環境の変化やデジタル化による教育環境の進展など、大きな変革の時期を迎えていることに触れ、取り巻く問題の多種多様化への対応するために、子どもたちのために何が出来るか、何をすべきか考えていかねばならない。そういう思いから、本大会のテーマにされた

経緯について話されました。また、「PTAの果たすべき役割は、ますます重要になってきています。今こそPTAの存在意義を見つめ直し、地域に根ざした教育の在り方を皆様とともに考えて行く時です。本大会が、今後のPTA活動の一助となり、新たな一歩を踏み出すきっかけとなることを切に願っております。」と挨拶されました。

感謝状・表彰状贈呈では、前PTA会長、PTA活動功労者、退任校長・渉外主任・広報紙コンクール入賞校のそれぞれの代表に授与されました。その後、受賞者を代表して三本木高校前校長小森直樹氏が受賞の謝辞を述べ、知事、県教育長、高等学校長協会長の祝辞とむつ市長の歓迎の言葉を頂き、開会式・表彰式は盛会のうちに終了しました。

(五所川原第一高等学校PTA会長

三上 達也)



記念講演

『これからの社会』を生きる我が子の進路選択に 保護者としてどう向き合っていくか』

「これからの社会」を生きる我が子の進路指導選択に保護者としてどう向き合っていくか。

今年の講話は「我が子とどう向き合うか」を焦点とした内容でした。少子化と生き方の選択が多様化する時代に我が子がどのような自身の将来像を持てているかの重要性をお話ししました。

私は現代社会は思った以上に完璧ではないと考えていますが、山下氏も準備されている答えに対して決まった事をしていくものではなく、正解のない社会のために情報を編集する能力が必要と語っていました。大学へ進学する子も就職する子もまずは自分が何をやりたいかという「自分自身の探求」がとても重要という話をされました。高校生を持つ親としては、子の将来を考えるあまり軌道修正に口出してしまいが、子自身が持つ将来像を応援する支援者とならなければいけないという事です。

私自身学びたいことがあり、現在弘前大学で現役学生と一緒に肩を並べて勉強しています。改めて自身が大学生になって、若者の考えがしつ



講師 山下 真司 氏

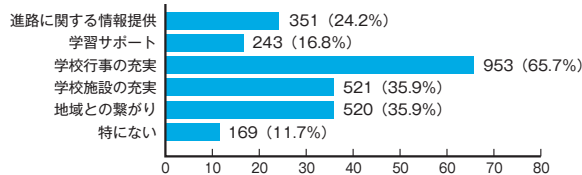
かりしていることに驚かされます。つい最近まで高校生だった学生はすでに将来を考えて、社会に疑問を持ち自身が社会人になったときにどうすればいいかを語ります。授業の考察に関しても社会人経験の長い私より深く鋭い考察を語ります。だからこそ子どもたちの考えは十分尊重できるものと確信しています。

社会問題が年々深刻化している世の中ですが、皆様のお子様方はきつと想像以上に立派です。我々は、我が子を信じて安心出来る高校生活をバックアップして参りましょう。

(弘前高等学校PTA会長 竹浪 敦)

PTAの活動で、高校生にとってプラスになることは、どのようなことだと思いますか？ (複数回答可)

[1,450 件の回答]

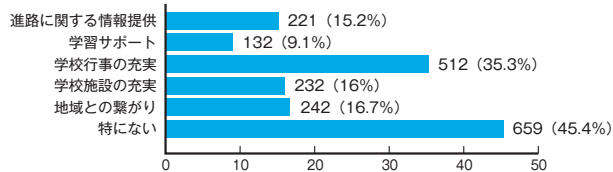


＜その他＞

- ・学校と家のつながりが持てる・安全安心な環境作り・お金を配る
- ・学校行事の充実というよりサポート

PTAの活動について、あなたが「参加してみたい」ものは次の活動の中にありますか？ (複数回答可)

[1,451 件の回答]

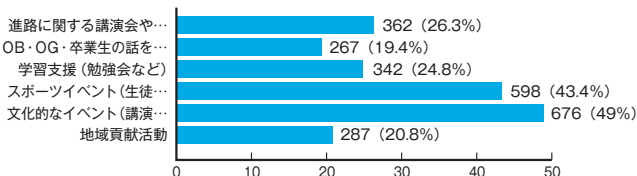


＜その他＞

- ・お花を植える・広報活動・郷土の祭り関係

あなたの学校のPTAでどんな活動をしてほしいですか？
当てはまるものに○をつけなさい (複数回答可)

[1,379 件の回答]



＜その他＞

- ・ボランティア活動・安全環境の充実・学習環境の充実・遠征支援
- ・保護者ではなく生徒の活動につながる支援

【高校生対象】 PTA活動に対するアンケート

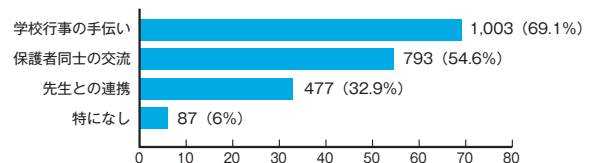
■■■ アンケートをお願いした学校 ■■■

三本木高校 木造高校 尾上総合高校 田名部高校
むつ工業高校 大間高校 大湊高校

1,454名の方にお答えいただきました。御協力ありがとうございました。

PTAという言葉から、どのようなイメージを連想しますか？ (複数回答可)

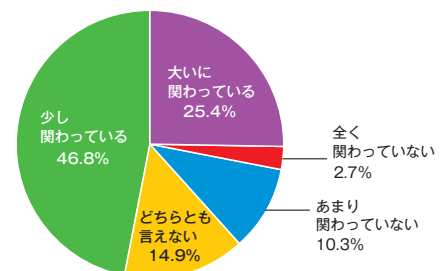
[1,452 件の回答]



＜その他＞

- ・保護者の集まり・子どもの学校生活の充実のため・休日集まって活動している
- ・地域の交流・子どものための活動・挨拶してくれる・上の人たち・めんどくさい役割
- ・先生よりも偉い人保護者がしょうがなく参加・役員大変そう・学校にクレームを入れる

PTAは、高校生の学生生活にどのくらい関わっていると思いますか？



※今回掲載できなかったアンケートは、次号に掲載いたします。

テーマ『個性が生きるPTA活動にするために』

～PTA活動どうしてる？～



「本校におけるPTA活動」

～個性が生きるPTA活動を目指して～

木造高等学校PTA会長

平田 浩介氏

木造高等学校は、昭和2年創立の伝統ある学校で、今年で98年目を迎えました。総合学科として多様な進路に対応したカリキュラムを備え、生徒一人ひとりの個性に応じた教育活動を行っています。また、地域と連携した探究活動も活発に行われ、「地域とともにある学校」として親しまれています。

本校のPTA活動は、「個性が生きるPTA活動を目指して」という方針のもと、保護者一人ひとりが無理なく関われる体制づくりを大切にしてきました。年間を通じて、広報誌『銀杏』の発行、研修旅行、総合競技大会での豚汁提供、校内研修会などを実施しました。特に総合競技大会では、前日からの仕込みと早朝の準備を経て、生徒全員に温かい豚汁をふるまいました。生徒たちから「おいしかった」といった声が寄せられ、保護者にとっても達成感のある活動となりました。研修旅行では地域の文化や自然に触れ、保護者同士や教職員との交流も生まれ、有意義なひと時となりました。

また、校内研修会では国際理解をテーマとした体験活動を行い、学びを家庭にもつなげる機会となりました。今後も「できる人が、できるときに、できることを」という思いを大切に、誰もが参加しやすい開かれたPTAを目指し、持続可能な活動の継続に努めてまいります。



「多様性の時代につなぐPTA活動」

～100年の軌跡の先に～

三本木高等学校PTA会長

中村 聖吾氏

本校は、南部地方内陸部に位置する十和田市にある学校です。平成19年に同敷地内に附属中学校が開校し、青森県内で唯一の併設型中高一貫校となりました。これにより6年間を見通した教育活動が展開され、校是である「規律ある進学校」「文武両道」を目指しております。

本校のPTA活動は中高保護者が一体として活動することに特徴があります。中学から高校に進学した際に、同じ専門委員会に所属してくれる保護者が多く、活動がスムーズに継続され、また一緒に活動によりコミュニケーションの輪が広がります。また、他に類を見ない委員会として「フォレスト委員会」があります。平成21年に学校と森林管理署で協定を結び、子どもたちの森林学習のために借りている国有林の整備を行います。奇麗な空気のもと自然に囲まれての作業はいつも清々しい気持ちにさせてくれます。山で作業すると、先生と保護者とともに汗を流した仲間として一体感が生まれ、終了後の昼食はとても楽しい時間となります。

子供たちにとって全ての経験が教育です。家庭での生活、学校での学習、地域での交流、そのどれもが教育にかかせないものです。先の見えない時代の中、より一層この三者が一体となり、これからのPTA活動を進めていくことが大切だと思います。



「個性が生きるPTA活動にするために」

～本校のPTAの活動状況と課題～

尾上総合高等学校PTA副会長

中田 早樹子氏

本校は平川市にある中弘南黒地区唯一の定時制通信制高校です。共通教科科目の他、一部専門科目も開講し、生徒は自己の進路希望や目標、価値観に応じて科目を選択して学習しています。研究協議では本校のPTAが関係する主な事例を紹介しました。

【はじめに】5月下旬に開催される懇親会で、教職員、保護者、後援会、同窓会、学校運営協議会、SSW等に参加を呼びかけています。教職員と保護者だけでなく、学校に関係する様々な方々との情報交換や親睦を深める場となっています。

【田んぼアート田植え、稲刈り】役場の方々にレクチャーをして頂き、田植えや稲刈りを行っています。1年次生は入学して最初の大きな行事であり、勤労や地域貢献の体験、クラスとの親睦を深める機会となっています。昨年度は10名ほどの保護者が来場され、普段とは違った子どもたちの様子を見る機会となりました。

【文化祭PTA食堂】保護者有志による食堂を出店しており、昨年度は15名の保護者が参加しました。メニューはそば・うどん・おにぎりで、来客者をはじめ生徒・保護者・教員の利用で盛況となりました。

【課題】課題としては、PTA会議や行事への参加人数にばらつきがあることです。1年次の時は参加人数が多く、徐々に減少する傾向があり、参加する機会の提供とPTA活動内容に参加しやすいものに改善していくことが必要であると感じています。

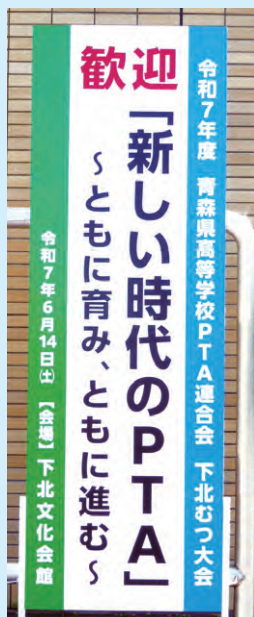
コーディネーターの山下さんから、PTA活動の可視化、柔軟性、組織の多様性についてのアドバイスや、PTAの持続的な活動が子どもの可能性を引き出すことにつながるのではないかと助言をいただきました。



下北むつ大会を終えて

実行委員長 辻 雅也

これまで、この大会は平日に開催していましたが、とにかくやってみようという事で、初めて土曜日に開催を致しました。結果は約250名と昨年の十和田大会には及ばなかったものの、大盛況で、とても有意義な大会となりました。山下真司先生による基調講演では、生徒が主体的に学ぶことの大切さを痛感致しました。また、研究協議では各校の取組から今後のPTAの在り方を考えさせられました。果たして、土曜日開催の是非やいかに。この大会に携わった全ての方に感謝し、来年の中南地区大会にバトンを渡したいと思っています。



山本市長歓迎の言葉



実行委員長挨拶



広報紙展示



会場づくり



開会式



受付



表彰式



研究協議



次期開催地区代表挨拶



情報交換会



記念講演

生徒とつながることができるあいさつ運動

青森商業高等学校 広報委員長 小島 明子

本校では定期的にPTAによるあいさつ運動を実施しています。あいさつ運動自体を行っている学校も多いと思いますが、本校の特色としてあいさつ運動&「補食の配布」をしています。

朝は遠方からの通学で時間に余裕がなかったり、ダイエットへの意識、朝食を食べることより睡眠を優先したい気持ちなどから朝食を抜いてくる生徒も多かった。当時の川村隆義PTA会長が高校生の朝食欠食率の高さを問題視しており、生徒たちには少しでも何かを食べてから授業を受けてほしいとのことで、あいさつ運動時に補食を配布することを提案していただきました。今までのあいさつ運動だと生徒は大人があいさつしてくるから義務感であ

いさつを返しているだけという感じでしたが、そこに何かを渡す、というアクションが加わっただけで生徒との会話、笑顔が増え、あいさつ+αを生むことができました。

生徒数も500人を越えるのでしっかりとしたもの配布することはできませんが、その時々によって配布するものは変わり、それも生徒たちの楽しみになっているのかもしれない。

小中PTAとは違い高校PTAともなると子どもとの直接の関わりも少なくなってきた、少し寂しい思いもありますが、こうした活動で子どもたちと交流し、子どもたちのために何かができることがPTAの楽しさであり、やりがいなのかなと思います。



ぴーあーる 我がPTA



「感謝の気持ちを 全力プレーで表現する」

五所川原第一高等学校 軟式野球部

我々五所川原第一高校軟式野球部は、6月に春季東北地区高等学校軟式野球大会に青森県代表として参加してきた。結果は初戦敗退であったが、普段の学校生活では見られないほどの部員の輝きや感動の涙など、野球の素晴らしさに改めて気づかされるシーンに立ち会うことができた。

五所川原第一高校軟式野球部は昭和61年に創部し、来年で創部40周年を迎える。スローガンとして、「感謝の気持ちを全力プレーで表現する」を掲げ、野球ができる幸せを噛みしめ、支えてくれる方々に対しての恩返し気持ちを忘れず、全力で部活動に取り組んでいる。高等学校のスポーツとして、心身の鍛錬やマナーの学習は欠かすことのできない要素であるが、部活動として大会に参加する以上は、勝つことへのこだわりも持つてほしい。それらを両立することのできるチームとして、運営を心がけてきた。

これまで何度となく東北大会に出場してきたチームだが、ここ数年は部員不足に悩み、いわゆる「助っ人」として、野球はおろかスポーツ未経験者に大会への出場をお願いして、何とか大会に出場できている状況である。このように、野球を含めてスポーツをやるうとする生徒



頑張っています
我が部活



が年々少なくなっていると感じる。スポーツが多方面で可能性を広げてくれることは確かである。勝つために地道な努力を続けた経験は、目標を達成するまでの困難に耐える力となるはずだ。懸命にプレーをする仲間への感謝、そのことが、諦めそうなる自分を励まし、背中を押してくれることがあるかもしれない。人生の様々な場面で支えとなることがあると思う。

また、家族など応援してくれる人の存在は大きい。応援してくれる人がいると、いつも以上の力が出るものだ。家族への感謝の気持ちをプレーで恩返しする機会を一度でも多く作れるよう、部員たちは日々練習に励んでいる。

(軟式野球部顧問 小山内 俊輔)

青森県教育委員会からのお知らせ

あなたの「学びたい」を支援します

○高等学校等就学支援金制度

高校に通う生徒に対して、教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の実質的な機会均等に寄与することを目的に、授業料等に充てるための高等学校等就学支援金を支給する制度（返済は不要）です。



県立高等学校における「高等学校等就学支援金制度」について

○高校生等奨学のための給付金

全ての意志ある高校生等が安心して教育を受けられるよう、授業料以外の教育費負担を軽減するため、一定の要件を満たす高校生等の保護者等に給付金を給付する制度（返済は不要）です。



国公立高校生等奨学のための給付金について



私立高等学校等の修学支援制度について

問い合わせ先：（公立）各県立高校又は県教育庁学校施設課 TEL：017-734-9873

（私立）各私立高校又は県子ども家庭部県民活躍推進課 TEL：017-734-9869

公益財団法人青森県育英奨学会の事業について

保護者が青森県民で、学業、人物が優れているにもかかわらず経済的理由により修学が困難な生徒及び学生に対し、以下の事業を行っています。

○高等学校奨学金 月額18,000円、23,000円、30,000円、35,000円から希望する金額を貸与（通学費又は下宿費の一部返還免除制度があります。）

○大学奨学金 月額44,000円を貸与（他の団体の給付型奨学金との併給が可能です。）

○大学入学時奨学金 10万円単位で60万円を上限に希望する金額を貸与（返還免除制度があります。）

○青森県学生寮 入寮費30,000円、寮費月額30,000円（電気代実費、給食1食550円（希望者））

詳しくは、県HP [青森県育英奨学会](#) で検索

こちらからもアクセスできます→



問い合わせ先：青森県育英奨学会（県教育庁教職員課内） TEL：017-734-9879

「あおり留学」に関するお願い（青森県内にお住まいの皆様へ）

鰹ヶ沢高校（鰹ヶ沢町）、柏木農業高校（平川市）、大間高校（大間町）、三戸高校（三戸町）、名久井農業高校（南部町）の5校では、全国からの生徒募集「あおり留学」を実施しています。

県教育委員会では、あおり留学について詳しく知ることができるパンフレットをHPで公開しているほか、一般選抜より早期に「あおり留学特別選抜」を実施するなど、県外中学生にあおり留学を選んでいただけるよう取り組んでおりますので、青森県内にお住まいの皆様におかれましては、青森県外にお住まいのお知り合い等に是非ご紹介くださるようお願いいたします。

【入試日程（予定）】

令和8年度入試	出願時期	検査実施時期	選抜結果
あおり留学特別選抜	1月下旬	2月上旬	2月上旬（選抜結果通知）
一般選抜	2月中旬	3月上旬	3月中旬（合格者発表）

【問い合わせ先】

全国からの生徒募集全般に関すること

県教育庁高等学校教育改革推進室 TEL：017-734-9866

県HPは
こちらから→



入試に関すること

県教育庁学校教育課 TEL：017-734-9883

令和7年度 一般会計予算

収入総額 10,657,000円
支出総額 10,657,000円
差引残額 0円

令和7年度 事業計画

収入の部 (単位: 円) 支出の部 (単位: 円)

科 目	予算額	科 目	予算額
会 費	5,900,000	事 業 費	5,105,000
内 学 校 割	1,010,000	助 成 費	225,000
	40,000	組 織 活 動 費	1,900,000
	700,000	研 修・行 事 費	1,800,000
	270,000	負 担 金	920,000
会 員 割	4,890,000	表 彰 費	180,000
県 立・全 日 制	4,272,000	会 報 費	80,000
市 立・全 日 制	555,000	運 営 費	5,290,000
定 通・特 別 支 援	63,000	会 議 費	900,000
助 成 金	400,000	旅 費	2,000,000
繰 入 金	500,000	印 刷 費	270,000
繰 越 金	2,805,446	事 務 費	250,000
雑 収 入	1,554	通 信 運 搬 費	200,000
受 取 手 数 料	1,050,000	渉 外 費	80,000
内 学 生・こども総合保険	350,000	慶 弔 費	60,000
高 校 生 24 時 間 総 合 保 障 制 度	700,000	人 件 費	1,350,000
合 計	10,657,000	使 用 料	100,000
		雑 税 公 課	80,000
		繰 出 金	0
		予 備 費	182,000
		合 計	10,657,000

令和7年度 特別会計予算

収入総額 12,687,000円
支出総額 12,687,000円
差引残額 0円

収入の部 (単位: 円) 支出の部 (単位: 円)

頂 目	予算額	頂 目	予算額
繰 越 金	12,684,776	助 成 金	0
繰 入 金	0	特 別 支 出 金	0
雑 収 入	2,224	繰 出 金	500,000
合 計	12,687,000	予 備 費	12,187,000
		合 計	12,687,000

活動方針及び事業計画

- 生涯学習を推進し、会員研修と広報活動を充実する。
 - 各委員会主管の研修会や各地区協議会研修会等へ積極的に参加する。
 - 県大会(むつ市)東北大会(仙台市)全国大会(三重県 津市)へ積極的に参加する。
 - 各委員会活動を活性化する。
 - 各委員会主管の研修会を充実する。
 - 東北地区高P連・全国高P連各委員会活動を担う。
 - 広報紙コンクールに積極的に応募すると共に、審査会を充実する。
 - 広報活動を拡充する。
 - 広報紙「つながり」(年2回発行)の内容を充実する。
 - リーフレットを新入生保護者に配布し、本連合会及びPTA活動の理解を深める。
 - 本連合会ホームページ(<http://www.aomori-koupren.com/>)により各種情報を提供する。
- 単位PTA及び地区協議会活動を助成する。
 - 各地区協議会の研究活動に対する助成を行うと共に、連絡や連携を密にする。
 - 単位PTA会長会議を開催(年2回)し、諸課題について協議すると共に情報交換を深める。
 - 高校生の健全育成に取り組む活動を支援する。
 - 生徒の安全に関する保険等への団体加入を推進する。
 - 全国高P連賠償責任補償制度、学生・こども総合保険、高校生24時間総合保障制度の加入率向上に努める。
 - PTA活動の望ましい在り方について調査研究を行い、生徒数減等による組織縮小化に対する様々な方策を模索する。
- 関係機関や関連団体との連携を推進する。
 - 県教育委員会・県高等学校長協会等と連携し、教育環境における諸課題や進路対策等に積極的に取り組む。
 - 県高校定時制通信制教育振興会・私立高校保護者会連合会・特別支援学校PTA連合会に対して助成を行う。
 - 県教育委員会等主催による研修会へ積極的に参加する。
 - 教育環境改善促進のための各種情報収集を行う。

令和7年度 委員会名簿

委員会名	役職名	氏 名	所属校名	単P役職名
健全育成	委員長	清水 寿子	柏木農業	副会長
	委員	戸沼 久美	青 森 森	健全育成委員長
	委員	細 越 利章	八 戸 商 業	副会長
	委員	稲 葉 光省	木 造	健全育成委員長
	委員	畑 中 優子	む つ 養 護	会長
	事務局長	加 藤 佑也	柏木農業	渉外主任
進路対策	委員長	三代川 将仁	三 戸 会	会長
	委員	八木橋 敏晃	青 森 西 会	会長
	委員	成 田 恵子	弘 前 中 央	進路対策委員長
	委員	畠 山 稔弘	五所川原工科	副会長
	委員	小山田 剛士	三 本 木	副会長
	事務局長	大 崎 敬子	三 戸 渉 外	主任
調査広報	委員長	坂 本 瞳	五所川原第一	副会長
	委員	小 島 明子	青 森 商 業	調査広報委員長
	委員	竹 浪 敦	弘 前 会	会長
	委員	坂 本 仁美	八 戸 商 業	調査広報委員長
	委員	佐々木 純	大 間 副	副会長
	事務局長	小山内 俊輔	五所川原第一	渉外主任
研 修	委員長	山 崎 明男	む つ 工 業	副会長
	委員	水 木 里美	青 森 北	研修委員長
	委員	大 川 孝司	尾 上 総 合	会長
	委員	中 村 純子	八 戸 商 業	副会長
	委員	長谷川 舞	五所川原農林	副会長
	事務局長	佐 藤 温子	む つ 工 業	渉外主任

令和7年度 役員名簿

役職名	氏 名	所属校名	備 考
会 長	高 橋 尚 裕	五 所 川 原	
副 会 長	須 藤 聡 志	青 森 商 業	東青地区協議会長
	大 川 孝 司	尾 上 総 合	中南地区協議会長
	千 葉 毅	八 戸 商 業	三八地区協議会長
	三 浦 大 介	五所川原農林	西北地区協議会長
	中野渡 裕 則	三 沢	上十三地区協議会長
	辻 雅 也	田 名 部	下北むつ地区協議会長
	高 橋 英 樹	青 森 森	県高校長協会推薦
	野 呂 政 幸	む つ 工 業	〃 下北むつ地区
	杉 森 晋	尾 上 総 合	〃 中南地区
	松 橋 俊 一	下 山 学 園	私立高校保護者会推薦
	濱 田 大 臣	大 湊	会長推薦
	赤屋敷 順	青 森 工 業	〃
理 事	榎 内 伸 治	弘 前 実 業	〃
	田 中 正 也	青 森 商 業	県高校長協会推薦 各地区1名
	島 元 力	弘 前 中 央	
	黒 坂 孝 弘	八 工 大 第二	
監 事	玉 井 勝 弘	五所川原農林	下北むつ地区協議会
	千 葉 努 三 沢	三 沢	
健全育成委員長	伊 藤 一 成	大 湊	下北むつ地区協議会
	中 山 康 夫	北 斗	県高校長協会推薦
進路対策委員長	清 水 寿 子	柏 木 農 業	中南地区協議会
調査広報委員長	三代川 将 仁	三 戸	三八地区協議会
研修委員長	坂 本 瞳	五所川原第一	西北地区協議会
顧問	山 崎 明 男	む つ 工 業	下北むつ地区協議会
顧問	葛 西 孝 之		前会長

青森県高P連事務局

事務局 長	岩 川 亘 宏		安全互助会事務局長
事務局 次 長	長 尾 吉 哲		安全互助会事務局次長
事務局 主 任	今 美智留		

編集

後記

今年度より「つながり」はデジタル広報紙となるため、よりたくさんの方の目に留まり、PTA活動の大切さが伝わる様に構成しました。この記念すべき「つながり」第102号が無事発信することができましたのも、調査広報委員をはじめ事務局、各高校関係者の皆様のご協力によるものと厚く御礼申し上げます。

保護者、学校が手を取り合い子どもたちの明るい未来のため懸け橋となるよう、今後も皆様のご協力を仰ぎながら充実した内容を掲載していきたいと思ひます。

調査広報委員長 坂本 瞳



令和6年度 収支決算書

■収益の部

(単位：円)

科	目	決 算 額
経常収益		18,410,928
うち会費収入		14,553,750
うち雑収入		132,427
うちIBNR備金		3,724,751
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		18,410,928

■費用の部

(単位：円)

科	目	決 算 額
経常費用		21,238,669
事業費		18,763,047
うち学校安全普及事業費		591,000
うち共済金等給付事業		5,490,126
その他の事業費		12,681,921
管理費		2,475,622
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		21,238,669

(単位：円)

正味財産期首残額	122,884,232
当期増減額 (a) - (b)	- 2,827,741
正味財産期末残額	120,056,491

令和7年度 事業計画

◆ 学校安全の普及充実事業

講習会・研修会の開催や共催、後援

◆ 共済金の給付

死亡共済金・後遺障害共済金・負傷共済金・香料

◆ その他目的を達成するために必要な事業

安全互助会だより64・65号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

令和7年度 役員名簿

■理事・監事

職 名	氏 名	所 属
理 事 長	大 溝 雅 昭	青森県高等学校PTA連合会 元顧問
理 事	高 橋 英 樹	青森県高等学校校長協会会長 青森高等学校校長
理 事	田 中 正 也	青森商業高等学校校長
理 事	益 川 毅	三本木高等学校元PTA会長
理 事	葛 西 孝 之	青森県高等学校PTA連合会前会長
常務理事	岩 川 亘 宏	青森県高等学校安全互助会事務局長
監 事	對 馬 祐 之	三沢商業高等学校元校長
監 事	佐々木 悦 男	青森工業高等学校元事務長

■評議員

職 名	氏 名	所 属
評 議 員	山 田 知	八戸東高等学校元PTA会長
評 議 員	黒 坂 孝	八戸工業大学第二高等学校校長
評 議 員	大 見 竜 人	むつ工業高等学校元PTA会長
評 議 員	蝦 名 由紀子	青森西高等学校元PTA会長
評 議 員	三 浦 真 介	弘前高等学校元PTA会長
評 議 員	加 川 香寿美	青森高等学校元PTA会長
評 議 員	奈 良 真 弓	五所川原高等学校元研修委員長

令和6年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業費（助成金） 591,000 円

(1) 地区協議会安全教育活動費	291,000 円
(2) 県高等学校体育連盟	100,000 円
(3) 県高等学校文化連盟	100,000 円
(4) 県高P連安全教育活動費	100,000 円

2 共済金等給付事業費 5,490,126 円

(1) 死亡共済金	0 円
(2) 後遺障害共済金	97,500 円
(3) 負傷共済金	5,292,626 円
(4) 香 料	100,000 円

3 その他事業費

- (1) 安全互助会だより62号
- (2) 安全互助会だより63号
- (3) 安全互助会の手引印刷代
- (4) 新入生保護者用リーフレット印刷代

青森県高等学校安全互助会加入生徒数

全日制	23,758 名
定時制・特別支援学級	984 名
通信制	530 名
総数	25,272 名